

尼崎市総合計画 市民懇話会提言

だから、
あまがすき。

平成22年7月

はじめに

【尼崎のまちづくりと総合計画】

尼崎市では、平成12年度に策定された、まちづくりについての行政の基本計画である「第2次基本計画」が計画年限を迎えることから、現在、次期基本計画の策定に向けて検討に取り組んでいるところです。検討にあたっては、今後、尼崎市が社会潮流の変化に対応していくことができるよう、基本計画だけでなく、長期的かつ総合的なまちづくりの指針である「基本構想」を含めた「総合計画」のあり方から検討を行っています。

【尼崎市総合計画市民懇話会の設置】

このような中で、新しい総合計画の策定にあたって、これからの尼崎市のまちづくりについて、市民の意見としての提言を行うために「尼崎市総合計画市民懇話会」が設置されました。

【市民懇話会からの提言】

平成21年8月以降、わたしたち委員は16回にわたって、それぞれが持っている意見の交換や整理を行い、尼崎のまちの現状と課題や「将来こうなって欲しい」という目指す将来像、そして、そのためには何をすべきか、などについての議論を重ね、わたしたち市民としての目線で望む尼崎市のまちづくりについての提言として、まとめあげることができました。

【わたしたちの気づき】

提言をまとめあげるための議論を重ねる中で、尼崎市のまちには、いろいろな人や良いところがたくさんあって、それぞれが立派に頑張っていることにわたしたち自身が気づかされました。でも、もしかしたら、これまではその個々のつながりが少し弱く、上手く結びついていなかったかもしれません。これからの尼崎市のまちづくりでは、既にある良いものを活かし、結びつけて、上手く発信することに取り組んでいくことが大切ではないかと考えます。

【これからの尼崎のまちづくりに向けて】

今回の提言を実現するためには、様々な課題を解決しなければなりません。わたしたちが集い、語り合っただけでまとめたこの提言には、尼崎市のまちをもっと良くして、もっと尼崎を好きになりたい、という市民の気持ちが込められていることを真摯に受けとめていただき、これから総合計画の検討を進めるにあたっての大きな柱として取り入れていただくことをお願いします。

尼崎市総合計画市民懇話会 委員一同

もくじ

- | | |
|--------------------|-------------|
| 1 尼崎市総合計画市民懇話会について | P 3 |
| 2 わたしたちが考える将来像 | P 4 |
| 3 個別テーマごとの提言 | P 5 ~ P 2 5 |
| 4 尼崎総合計画市民懇話会名簿 | P 2 6 |

尼崎市総合計画市民懇話会について

- ・「尼崎市総合計画市民懇話会」は、市民が「これからの尼崎市のまちづくり」をテーマとした議論を交わし、新しい総合計画を策定するにあたっての提言を行うために、平成21年8月に設置されました。
- ・メンバーは26人で、尼崎市が現行の第2次基本計画の点検結果についての市民意見を聞くために平成20年に設置した「尼崎市総合計画等市民懇話会」のメンバーを基本として、新たに公募委員を加えて再出発しました。
- ・平成21年8月以降、それぞれの意見を持ち寄っての議論や整理の作業のために集まることを16回重ね、ようやくここに提言としてまとめあげることができました。
- ・この提言は、これからの尼崎市のまちづくりについての、わたしたちの考えをまとめたものです。ご覧になった市民の方にも、「これからの尼崎市のまちづくり」について考えていただければ幸いです。

活動の記録

日 時		内 容	
第1回	平成21年8月21日	金	・委員の委嘱 ・座長・副座長の設置 他
第2回	平成21年8月31日	月	・懇話会の運営方法 ・審議会委員の選任 他
第3回	平成21年9月26日	土	・尼崎市に対する思いや考えについて(自由論議)
第4回	平成21年10月19日	月	・同上
第5回	平成21年11月21日	土	・「これからの尼崎市のまちづくり」について (グループワーク)
第6回	平成22年1月16日	土	・同上
第7回	平成22年2月2日	火	・同上
第8回	平成22年2月20日	土	・「これからの尼崎市のまちづくり」について (グループワークでの意見等の集約)
第9回	平成22年3月2日	火	・同上
第10回	平成22年3月20日	土	・「これからの尼崎市のまちづくり」について (集約した意見等を分野ごとに整理)
第11回	平成22年4月6日	火	・同上
第12回	平成22年4月17日	土	・同上
第13回	平成22年5月11日	火	・同上
第14回	平成22年5月22日	土	・同上
第15回	平成22年6月1日	火	・提言書とりまとめ
第16回	平成22年6月19日	土	・同上

わたしたちの考える将来像

10年後のわたしたちが、自分達のまちのことを、「こんなまちだから、あまがすき！」と自慢できたらいいな。という気持ちで、将来像と提言シートをまとめました。将来像と提言シートは、10の個別テーマに分かれています。それぞれが互いにつながって、より良いまちになっていけばいいな、と思います。

学びたい気持ちに
応えてくれる
から!

➡ 6ページ

まちに元気が
みなぎっている
から!

➡ 10ページ

安心して
働き続けられる
から!

➡ 12ページ

健康で
いきいき
暮らせる
から!

➡ 14ページ

だから、
あまがすき。

歴史・文化が
活きている
から!

➡ 16ページ

地域に個性が
活かされている
から!

➡ 18ページ

みんなが
環境で
つながっている
から!

➡ 20ページ

一緒に
まちづくりが
できる
から!

➡ 22ページ

個別テーマごとの提言

提言シートは、メンバー同士が自由に意見を述べあう議論の中で、個別テーマごとに「現状と課題」、「目指すべき将来像」、「実現の手段」について、それぞれの思いやアイデアを共有・整理してまとめました。

また、「メンバーから出た意見」として、共有しきれなかった具体的な意見やアイデアについて掲載しています。

わたしたちは、それぞれの分野の専門家ではありませんので、現状と課題の分析は緻密なデータに基づいたものではありませんし、その他の記述も専門の方から見れば足りない部分もあるかもしれません。しかし、実際に暮らしているわたしたち市民が「実感」として、感じたり考えたりしたことを、提言としてまとめさせていただきました。

【 現状と課題】

提言をまとめるにあたって、分野ごとに今、尼崎市はどうなっているか、何が問題となっているのか、何で困っているのかという現状と課題を洗い出しました。

【 将来像】

将来こうなって欲しい、という目指すべき将来像を設定しました。

【 実現の手段】

将来像を実現するために、何をすべきか・どうすべきかという提案やアイデアをまとめました。

【 メンバーから出た意見】

議論の中で、メンバーから出された具体的な意見やアイデアなど

個別テーマの一覧			
			1 学校教育
2	社会教育	3	市場・商店街
		4	雇用・労働
5	福祉・医療(介護)	6	歴史・文化
		7	コミュニティ
8	環境	9	行政
		10	イメージ発信

提言シートの記載例

現状と課題

個別テーマ 1 「学校教育」について

現状課題

- 学力向上させる必要がある。
- その他には、教科書の勉強だけでなく、日頃の生活態度や物事に対する集中力も養う必要がある。
- 生活力(生きていく力)を養育する必要がある。
- 学習環境の整備・充実が不可欠である。
- コミュニティや地域に学ぶ必要がある。
- 家庭学習と基本的な生活習慣をみんなで育む必要がある。
- 食育に関する、地域の人々の活用が必要である。
- 広域から優秀な教師を育成する必要がある。
- 親の収入によって教育の格差が生じる傾向がある。

目指す将来像

学校での学習環境の整備に加え、家庭や地域も含めたより良い環境を育むまち

実現の手段

ゆとり教育を廃止し、総合的な「生きる力」を高める工夫をする。広域から優秀な教師を招き出す方法を考える。小学校から大学までの教育の連携を図る。生涯学習を推進する。機会だけでなく、協働して学習する機会を増やす。教育だけでなく、地域に貢献できる場をつくる。教育コミュニティの拡充を図る。地域教育協議会や小学校単位でつくる。家庭での学習環境を育む。ボランティア活動への参加により単位が取得できる仕組みをつくる。

メンバーから出た意見

【課題と現状】

「教育は大丈夫？」というだけで実態を知らないから不安

「児童」生活の学力向上は、勉強をさせるだけでなく、生活習慣や人としての大人でいたい。

【目指す将来像】

地域力で学力を高めるまち

【実現の手段】

教育の大切さを認識し、長期的な人材育成を、ボランティア活動で単位が取得できる。幼児から小学校へ連携した教育システム。トライやる・ウィークの拡大(中学、高校、大学) 学校のクラブ活動の充実

個別テーマ 1

- 学びたい気持ちに応えてくれるから -

「学校教育」について

現状と課題

- ・ 学力を向上させる必要がある。
- ・ そのためには、教科書の勉強だけでなく、日頃の生活態度や物事に対する集中力を養う必要がある。
- ・ 生活力（生きていく力）を育成する必要がある。
- ・ 学習環境の整備・充実が不可欠である。
- ・ コミュニティ力を教育に活かす必要がある。
- ・ 家庭学習と基本的な生活習慣をみんなで考える必要がある。
- ・ 見守り隊など、地域の人材の活用が必要である。
- ・ 尼崎から優秀な教師を育成する必要がある。
- ・ 親の収入によって教育の格差が生じる傾向がある。

目指す 将来像

学校での学習環境の整備に加え、家庭や地域も含めたより良い環境を育むまち

実現の 手段

ゆとり教育を見直し、総合的な「生きる力」を高める工夫をする。
尼崎から優秀な教師を目指す生徒を育てる。
小学校から大学までの教育の連携を図る。
進路に多様性をもたせる。
競争だけでなく、協調して学習する機会を増やす。
教育に関して自由に議論できる場をつくる。
教育コミュニティの拡充を図る。
地域教育協議会を小学校単位でつくる。
家庭での学習環境を育む。
ボランティア活動への参加により単位が取得できる仕組みをつくる。

メンバーから 出た意見

【課題と現状】

- ・教育は大丈夫？(うわさだけで実際を知らないから不安)
- ・児童・生徒の学力向上は、勉強をさせるだけでなく、生活環境や人づくりが大切ではないか。

【目指す将来像】

- ・地域力で学力を高めるまち

【実現の手段】

- ・教育の大切さを認識し、長期的・戦略的な人材育成を。
- ・ボランティア活動で単位が取得できたら。
- ・幼児から小学校へ連携した教育システム
- ・トライやる・ウィークの拡大(中学、高校、大学)
- ・学校のクラブ活動の充実

個別テーマ 2

- 学びたい気持ちに応えてくれるから -

「社会教育」について

現状と 課題

- ・ 高齢化社会が進展する中で、生きがいをもって生活するためには、生涯教育が一層重要になると思われるが、市の財政上の問題もあり、公民館や図書館などの機能が衰退してきている。
- ・ 道路や公園などでのゴミの多さなど、大人の公共マナーの悪さが目に付くとともに、子どもに悪影響を及ぼす。
- ・ 公民館等の公共施設は既存の活動で埋まっており、新しく活動を実施できる場が少ない。

目指す 将来像

生涯を通じて学習できる環境が充実したまち

実現の 手段

公民館などの公共施設のより一層の活用を図り、ボランティアによる授業などを行う。

公民館などの公共施設の利用に当たっては、新しいグループも活動できるよう調整を行う。

子どもの頃から子ども会や町内会などの取組に関わるような仕組みを考える。

スポーツだけではなく、文化的な活動の振興にも取り組んでいく。

メンバーから 出た意見

【課題と現状】

- ・生涯教育、あるいは生涯学習の充実
- ・市民(市内に通勤通学する人を含む)の公共マナーの向上
- ・大人力を高める。
- ・大人になった時、立派な生活のできる教育

【目指す将来像】

- ・公共施設が十分活用されているまち
- ・社会資源としての公共施設

【実現の手段】

- ・公民館をフルに使って協働で教育するまち
- ・子どもの頃から町内に参加できる仕組みづくり。
- ・青年団、だんじり等の人材を育てる仕組みづくり。

個別テーマ 3

- まちに元気がみなぎっているから -

「市場・商店街」について

現状と 課題

- ・ 大規模商業施設の進出が盛んな一方、昔から地元にある市場や商店街が衰退している。
- ・ 大規模商業施設の進出と消費者自身が地元で買い物をしなくなっていることにより、地域の中でお金が循環しない。

目指す 将来像

地元の市場や商店街の活性化により、
地域がにぎわうまち

実現の 手段

自分達の地域、自分達の商店街、自分達のお客様であるという認識に立って、商店街の活性化を図る。

地域の中でお金が循環する仕組みや市外から来た人が地元のお店などでお金を使うような仕組みを考える。

健康や食育の観点を取り入れた販売促進に取り組む。

市が蓄積している地元産の商品や地域振興の取り組みについての情報を積極的に発信する。

事業者が自ら集い話し合うことで、自分達の市場・商店街のプロデュースに取り組んでいくための仕掛け・仕組み・人材育成に取り組んでいく。

メンバーから 出た意見

【現状と課題】

- ・大規模商業施設でも衰退していくものもある。
衰退をくい止め、活性化を図る方策をたてられないか。
- ・市場、商店がさびれていく。
- ・大型店舗が増えて、小型店のような細やかなサービスが受けられない。
- ・商店街は、コミュニティだ。対話がある。
- ・尼崎はお金を外へ持って行かれている。

【将来像】

- ・地域がにぎわうまちにしたい。
- ・観光のまちにしたい。お客さんが来て、
お金を落としていただけるまちにしたい。

【実現の手段】

- ・飲食があると、人が集まる。
- ・市場、商店街は他人でもよいので後継者を作ろう。
- ・地産地消のまちづくりを進める。
- ・地産地消 野菜栽培工場を建てる。
- ・尼崎のシンボルブランドを育てる。
- ・ギャンブル特区にする。

個別テーマ 4

- 安心して働き続けられるから -

「雇用・労働」について

現状と 課題

- ・ 地元の若者の雇用を確保する必要がある。
- ・ 障がい者の雇用を確保する必要がある。
- ・ かつて、多くの人をひきつけてきた尼崎の魅力を、改めて創造する必要がある。

目指す 将来像

地元で安定したしごと、
働くことができるまち

実現の 手段

市の事業の実施に当たっては、雇用に配慮した方策を検討する。

尼崎が抱える社会的課題を地元で解決していこうとするコミュニティビジネスや社会企業を支援する。

働きがいを感じたり、キャリアデザインができる教育や仕掛けづくりを検討する。

憧れられる大人を増やす。

メンバーから 出た意見

【現状と課題】

- ・外国から労働力を受け入れるぐらいなら、地元の若者に雇用を。
- ・障がい者にも雇用を。いろいろできる仕事がある。
障がい者への理解が不足している。
- ・障がい者が生きがいを持って生きていけるまち

【将来像】

- ・地元で雇用を確保すれば。
- ・地元で働ける仕組みをつくれたら。

【実現の手段】

- ・元気な産業を育てるまち
- ・地域産業を拡大させるまちづくり
- ・若者の仕事をする「基地」となる場の設定をして、
若い人の仕事を定着させる。
- ・子育て支援をするために、
シルバー人材センターの人材を活用すべき。
- ・(尼崎環境基金にならって)地域活動基金の創設
- ・お金のかからない問題解決を協働で早くやる。

個別テーマ 5

- 健康でいきいき暮らせるから -

「福祉・医療（介護）」について

現状と 課題

- ・ 福祉が行政だけで支えられなくなっている。
- ・ 安心して支えあえる社会を目指す必要がある。自治会などのネットワークは存在するが、その構成員も高齢化してきている。
- ・ 災害時や緊急時に支えあえる地域になっているかどうか不安である。
- ・ 養護学校が市内に存在しないなど、障がい者の視点に立ったまちづくりになっていない。

目指す 将来像

**誰もが生涯を通じて健康で
いきいきと暮らせるまち**

実現の 手段

様々な主体が活動の場を広げ、関わりあう機会を提供していく。

地域の人が「おたがいさま」で支えあう風土をつくっていく。

若い人達が意欲を持って地域の活動に参加できる仕組みづくりを考える。

まじめに働く人・働きたい人が幸せになれる制度づくり

自治体も社会に向かって地域の活動の情報を発信していく。

バリアフリーをより促進していく。

メンバーから 出た意見

【現状と課題】

- ・町会、自治会を作らない地域もある。
(支えが必要な人の把握もできない)
- ・災害の時に支えてもらえるか。隣近所とのつながりが必要。
- ・尼崎の養護学校は、市内にない。
- ・地域分権の人材育成

【将来像】

- ・福祉活動は、地域主体で支援しあえるまち
- ・病院施設が充実しているまち

【実現の手段】

- ・緊急の時は隣近所の人が支えあう。
- ・かかりつけの医師が十分にいるまち

個別テーマ 6

- 歴史・文化が活かしているから -

「歴史・文化」について

現状と 課題

- ・ 尼崎には、寺町や城内などの歴史的資源があるにも関わらず、十分に活用されていない。
- ・ 他都市からの観光客を増やし、地元でお金を使ってもらうことが必要である。

目指す 将来像

歴史・文化に親しめるまち

実現の 手段

ちかまつだけでなく、多様な地域資源・文化資源を活用する。

歴史的に価値のある建築物などを明示する立て看板等を設置する。

歴史・文化を紹介したり、案内したりする団体やボランティアを充実させる。

尼崎固有のキャラクターなどを活用して、尼崎の紹介に役立てる。

地域振興の観点からも、地元の飲食店を充実させる。

メンバーから 出た意見

【将来像】

- ・歴史が活きるまち
- ・尼崎はこんなカッコいいまちだったという情報発信
- ・時代に即した文化の創造

【実現の手段】

- ・観光資源としての城内地区の活用
- ・観光の推進(観光地の整備)
- ・ボランティアが充実したまち
- ・地域の人によるボランティアガイド
- ・寺町で20人くらいの食事ができる所(特に市外から来たグループ)
- ・尼崎の七福神巡り
- ・にぎわいの再検討
- ・尼崎城の天守閣の再建の礎の活動をしたい。
- ・戦後文化財の破壊が進んだが、それを再建するための取組をしたい。
- ・忍たま乱太郎を活用する。

個別テーマ 7

- 地域に個性が活かされているから -

「コミュニティ」について

現状と 課題

- ・ まちづくりについては、一人だけが頑張るのではなく、地域コミュニティの再生が必要である。
- ・ 昔は困ったことがあれば商店街の店主などに協力してもらえたが、現在は商店街も衰退してきており、そういった関係も希薄になっている。
- ・ 地域の再生は、様々な世代で取り組み、次の世代に継承していく必要がある。
- ・ 男性は地域での交流が苦手な傾向があり、そういった仲間づくりが苦手な中年男性の活用について考える必要がある。

目指す 将来像

地域の個性を活かした
まつり^(´)が楽しめるまち

実現の 手段

住民自治組織を強化し、若年層も参画できるような取り組みを行う。

地域振興センターの支援を充実させる。

地域ネットワークを充実させる仕掛けづくり

祭やイベントなど地域で集える場をつくる。

メンバーから 出た意見

【現状と課題】

- ・仲間を集めることの難しさ。
- ・人材発掘の手法が難しい。
- ・コミュニティの必要性を知らせる仕組みを。
- ・自分達の地域の情報を知らせてほしい。
- ・一つのきっかけで地域の一体感が生まれる。
- ・町会の範囲で相談相手がいること。

【実現の手段】

- ・地域住民を生活サポーターという形で活用する。

()ここでいう「まつり」とは、いわゆる祭礼だけでなく、地域の住民が交流を図ることができるイベントなどを含みます。

個別テーマ 8

- みんなが環境でつながっているから -

「環境」について

現状と 課題

- ・ 環境面では過去と比較して大幅に改善されている。
- ・ かつての公害都市のイメージを払拭できていない。
- ・ 個人のモラルによるまちの美化という部分では、まだまだ課題がある。
- ・ 個々の環境活動は盛んに行われているが、ネットワークをプロデュースする人がおらず、それぞれが繋がっていない。
- ・ 市民に対して上手く情報発信できていない。
- ・ 環境美化に対する意識がまだまだ低い。

目指す 将来像

みんながつくり、発信する
花のまち・エコのまち

実現の 手段

環境活動に取り組んでいる人たちをつなげる場をつくっていく。

ささやかな取り組みを、大きな取り組みにつなげていくための仕掛けづくり

わかり易く実感できる環境の取り組みを増やしていく。

学校、地域、NPO、事業者等がともに環境に取り組める仕組みをつくる。

メンバーから 出た意見

【現状と課題】

- ・自転車マナーの悪さが目立つ。
- ・車優先で歩道等の整備遅れが目立つ。
- ・行政の発想力向上
- ・煙突の煙はなくなったが、自動車排ガスが増えている。
- ・家庭からのCO2発生が増えている。
- ・経済面もあって太陽光発電などの自然エネルギーの利活用が増えている。
- ・学校に環境面の情報が届きにくい。
- ・世代間交流が疎遠になっている。
- ・歩行喫煙やポイ捨てが増えている。

【将来像】

- ・エコなまちづくり
- ・環境都市あまがさき
- ・環境先進特区あまがさき
- ・太陽光発電世界一のまち
- ・若い層が尼崎に残る(住む)ような環境づくり
- ・尼崎市民はマナーがよいと言われるまち
- ・みどりを愛するまち
- ・こぎれいでさっぱりしたまち

【実現の手段】

- ・尼崎エコ検定の出題文を公募する。
- ・公共施設の太陽光発電の推進
- ・ヒゲの渡しまで自転車を運び(定期便有料)、川沿いをサイクリングする。
- ・自転車を活かしたまち
- ・庄下川をもっと美しい川にしたい。親水性がある川にしたい。
- ・やれるところから始める。
- ・自転車マナー向上の仕組みをつくる。

個別テーマ 9

- 一緒にまちづくりができるから -

「行政」について

現状と 課題

- ・ 従来の縦割り行政や人員削減による効率化だけの行政運営は、通用しなくなっている。
- ・ 行革のために何でもアウトソーシングすることが本当に良いことなのか考える必要がある。
- ・ 公共施設の建て替え等における市民との協働が大切である。

目指す 将来像

市民と行政が共に動くまち

実現の 手段

たくさんの人とともに仕事ができるようなプロデュースやコーディネート、ファシリテートをする能力を持つ職員を増やしていく。

魅力ある人材を集めるための仕掛けづくりに取り組む。

尼崎の良さを積極的に情報発信していく。

情報政策と人材研修の充実に取り組む。

適材適所の職員配置を徹底し、職員の労働意欲を高め、より効率的な事業運営を行う。

施設的设计段階から市民など利用者の意見を聞き、利用しやすい施設とする。

メンバーから 出た意見

【現状と課題】

- ・縦割り行政、人員削減の行政
- ・行政のPRとまちづくり

【実現の手段】

- ・市職員の適材適所配置を徹底し、職員の意欲を高めれば、一層効率的な事業が行えると思う。
- ・施設等の整備にあたっては、設計段階から利用する当事者と設計者を交えて計画を立案する。

個別テーマ 10

- 良いところを発信するための情報戦略 -

「イメージ発信」について

現状と 課題

- ・ 地域にある良いものを活かした、上手なイメージの発信ができていない。
- ・ 悪いイメージを払拭できていない。
- ・ イメージがみんなで共有できていない。

目指す 将来像

長所を活かし、発信できるまち

実現の 手段

悪いところではなく、尼崎にしかない良いところに目を向けて、良いイメージを発信していく。

まちや、まちのイメージについて、みんなで語り合い、共有できる場所や機会を増やしていく。

ブランドシンボルを共有し、発信していく。

情報メディアを活用してイメージを発信していく。

尼崎固有のキャラクターなどを活用し、尼崎の紹介に役立てる。

メンバーから 出た意見

【現状と課題】

- ・古いモノと新しいモノが混在している。
- ・尼崎市に住んで42年。特にステキな市とは思わないが、なぜか居心地がいい。
- ・庶民的で気軽に暮らせるまち
- ・ごった煮のまち
- ・イメージが悪いから住民が尼崎から出ていく。
- ・尼崎のイメージアップ
- ・若い世代を育成しなければ。やれるところから。
- ・コミュニティ再生。世代間交流。
- ・世代間交流は、なかなか難しい。
- ・新旧住民のコミュニケーションどうするのか。

【将来像】

- ・地域力が高いまち
- ・文化的なまち
- ・楽しく美しく潤いのあるまち あまがさき
- ・「尼崎がすき」人がすき
- ・人間のつながりをうまく出していくまち
- ・人材づくりのまち あまがさき
- ・地域の特性が活きるまち
- ・市民が生き生きとしているまち
- ・地域が繁栄するまち
- ・福祉のまちあまがさき
- ・市民がプライドを持てるまち

【実現の手段】

- ・気楽に来ていただけるまちにしたい。
- ・地域で支え合い、年をとっても自分らしく生きることができる。
- ・健康推進のまちづくり
(全国規模のマラソン大会、ウォーキング大会の実施など)
- ・住民自治の推進。ミニ行政区。
- ・地域の特性に合わせた取り組みを。
- ・尼崎を象徴するシンボリックな物(タワーなど)がほしい。
- ・水車型のまちづくり
- ・南部の魅力を発信

尼崎市総合計画市民懇話会名簿

(敬称略・50音順)

磯田雅司	中村治子
伊東勇	西田昌子
江田政亮	野山恭一
大山崇寛	羽間美智子
緒方由紀 (副座長)	久隆浩 (座長)
喜多聖二	本荘真澄
北川一人	前川雅彦
柴田光啓	正岡茂明
下枝万祐	宮脇征二
高見香織	目澤隆治
田中いずみ	山元茂男
富永文雄	山本正信
中川雄三	渡辺真理

【事務局】

尼崎市 企画財政局 都市政策課

TEL 06-6489-6147 / FAX 06-6489-6793

ama-tosiseisaku@city.amagasaki.hyogo.jp